平成２婆１爺

fb92745e

果てなき争い

主な人物
山田　里美　７８歳。元小学校教師。長女。
山田　吉野　７６歳。元小学校教師。次女。
山田　利夫　７５歳。元銀行員。長男。
野中　玉江　６５歳。山田家の隣家の主婦。
野中　石雄　６７歳。山田家の隣家の主人。
石川　紅子　６３歳。近所の主婦、玉江の友人。
佐藤　礼子　５９歳。近所の主婦、玉江の友人。
泊　　夏夫　４７歳。山田家の隣家の主人。
泊　　道子　４７歳。夏夫の妻で、主婦。
野沢　由美　７６歳。吉野の親友で、のちに同じ高専賃に住む仲間。
佐川　胡桃　７３歳。吉野の友人で、同じ高専賃に住む仲間。
石巻　里子　７２歳。吉野の友人で、同じ高専賃に住む仲間。

第１幕
東京郊外の、静かな住宅地。漆喰や石積みの塀が、続いている。とある一軒の家のなかで、野中玉江が、庭に面した居間で、近所の２人の主婦と、声を潜めて、話し合っている。

野中　あら、聞こえなくなったわ。終わったのかしら、喧嘩。
石川　本当。でも、よく疲れないわね、月に５、６回も、あるんでしょ？
野中　この所は、すこし減ったけど。でも、激しさは、さらに大盛りよ。
佐藤　私の家まで、聞こえてくることがあるわ。４０メートルは、離れているのに。
野中　昔は、まあまあ仲良く見えていたんだけど。お母様が、亡くなってからね、ひ

どくなってきたのは。そう、１０年ちょっと前から、かしら。
石川　三人とも、年金はたっぷりあるし、貯金も凄くあるはずよね。学校の先生と、銀行員だったんだからさ。すこし折り合って、修理費は共同で負担すればいいのに。これじゃあ、野中さん、たまらないわよねえ。この、騒ぎじゃあ。
野中　ソラシアンの人も、困っているのよ。見積もりの返事が、いつまでももこないから。聞きにきても、門がしまっているし、電話やインターホンにも、誰も出ないし。
佐藤　三人とも、自転車で銭湯に行っているんでしょ。藤の湯って、８００メートルくらいあるかしら。
石川　今はまだいいけど、夏になったら、大変ね。せっかく汗を落としても、また汗を掻いちゃうわ。
野中　ひとり三分の一ずつ出せば、そんなに大金でもないわよね。
佐藤　なんか、貯金を減らすのが、大嫌いみたいよ、三人とも。えらいケチだって、出入りしている、ここの商店街の人たちが言っているわ。もっとお金を貯めて、それぞれ、いい養老院に、入る気なのかしらね？
野中　そういう噂も、あるよね。でも、ただ通帳の金額が増えていくのが、山田姉妹の生きがい、なんだって言う人もいるけど。
石川　そんなに貯めて、どうするのかしら？三人とも、あと１０年くらいで、平均寿命がくるでしょ？子供もいないし。
佐藤　でも、羨ましいわ。お金があれば、どんな苦労も、かなり軽くなるわね。

春の午後の陽は、すこし落ち始め、三人に春の陽のスポットを当てながら、舞台暗くなっていく。

第２幕
あれから、１０日後。山田家の洋風の居間に、三人が集まっている。

里美　さて、今日は月一回の、家計会議の日です。先日、問題になった、お風呂の修理について、話し合いましょう。
吉野　単純に、三分の一ずつの負担、というのは、私は大変おかしいと思います。やはり、いままでの使用状況や、破損した状況に応じて、負担すべきだと思いますわ。
利夫　使用状況って言っても、誰がどういう風に、調べるんだい。
吉野　そんなの簡単よ。私、去年の利用状況、全部ノートに記録してあるわ。
利夫　ええっ、あんたもヒマだね。
吉野　うるさいわねっ。ほら、これが証拠よ。
（持参のエコバックから、小型のノートを取り出す。里美が、それを横から奪い取る。そして、ぱらぱらと一瞥する。）
里美　あら、よく付けてあるじゃないの。ふうん、まあ、いちおう採用しましょう。
（ノートは、利夫に渡る。利夫は、熱心にノートを調べる。）
利夫　へえ、こりゃたいしたもんだ。でも、かなり間違っているよ。たとえば、１２月２０日は、俺は友達と、巣鴨で忘年会だったからね。２次会にも行って、そのまま、ネットカフェで夜明かししたからね。風呂には、入いれないね。
吉野　何よ、あんたはいつも、入ったあとが、汚くなっているじゃない。ダメージにプ

ラスして、当然よ。
利夫　何だと！あんたこそ、出たあとがいつも水でビチャビチャだぞ。
里美　まあまあ。でも、今回は、私達、譲り合う必要がありそうよ。昨日、藤の湯に行ったら、傍にいた小母さんたちが、ヒソヒソ話しをしていたの。
吉野　で、どんな？
里美　何とね、あと半年で、藤の湯が閉まるんですって。
吉野・利夫　ええっ！！
里美　何だか、あそこのお子さん達が、サラリーマンになっていて、後を継がないことが最近ハッキリしたので、取り壊して、駐車場にするんですって。
利夫　そりゃ困る。本当に困るよ。
吉野　困る困るの、大盛りよ。じゃあ、今回だけは妥協しなくっちゃね、お互いに。
里美　次に近い銭湯といったら、隣町の椿湯しかないわ。私、あそこのお湯、あんまり好きじゃないのよ。熱過ぎて。昔は、この辺りに、３、４軒あったんだけどね。
吉野　椿湯なんて言ったら、３キロ以上も先よ。とても、週４回も行けないわ。家のお風呂なら、毎日でも入れるけど。
利夫　週に２、３回なら、運動のつもりで半年くらいは何とか行けるけど、長期間は、とても無理だね。特に、夏とか冬は。
里美　私も、とても無理よ。特に、夏になったら。だから、今回はすこし不利でも、妥協することにするわ。
吉野　そうね、それが利口というものだわ。
利夫　見積もりは、いくらくらいだったかな？
吉野　２５０万円だったわ。ほら、ついでにトイレも、ウオシュレットに直すでしょ。あそこも、もうガタガタだし。
利夫　高いなあ。１割引けないのかい？

里美　私、２、３の知り合いに聞いてみたのよ。サービスしてるほうじゃないかっ、て。大手だから、保証も安心だし、って。
吉野　まあ、仕方ない金額なのかしら、ね。
利夫　まあ、いちおう交渉してみてよ。それ次第で、臨時会議開こう。
里美　じゃあ、今日の家計会議はこれでおしまいね。改めて、話し合いましょう。

利夫は下手に、里美と吉野は上手に、そそくさと消えて行く。
第３幕
８ヶ月後の、野中邸。山田家を挟んだ隣家である、泊家の夫婦が居間に来ている。お茶を飲みながら、４人は世間話をしている。

道子　ところで、藤の湯がなくなって、山田さんのお宅、お風呂は、どうしていらっしゃるのでしょう？
石雄　俺、この間、見たよ。利夫さんが、自転車にのって、風呂に行くの。洗面器積んでたから。椿湯かい？て聞いたら、そうだって。遠くて困る、って言ってたよ。
夏夫　僕も、見ましたよ。３日前くらいに。夜の７時ごろだったけど。
玉江　だったら、ソラシアンに直して貰えばいいのにねえ。
道子　噂では、一度話しがまとまって、修理を頼むことになったらしいけど。また駄目になったのかしら。
玉江　それぞれの負担金で、折り合わなかったみたいよ。椿湯は遠いから、いくらケチケチタイプでも、一度は話しが上手くまとまったらしいけど。
石雄　三人とも、えらいドケチだからなあ。
夏夫　見た感じでは、それほどケチに見えないですね。いい服も、着てるし。

玉江　お家は、昔からこの辺りの名家なのよ。でも、なぜか三人とも、結婚してないし。お金に困ったことはないはずだけど、昔からドケチという評判だし。でも、若い頃は、それほど仲が悪くなかったはずよ。詳しいことは、知らないけれど。

石雄　昔、ちょっとだけ聞いたことがあるけど。４０年も前頃、吉野さんの恋人が株屋で、その人の勧めで買った会社の株が、倒産してパーになったとか。詳しくは知らんけど、ともかく、三人とも大損したらしいな。そんな、話しだね。

道子　その恋人は、どうなったのかしら？

玉江　噂だけど、里美さんに５時間泣かれて責められ、利夫さんに、殴る蹴るされて吉野さんとも、結局別れたって。

夏夫　まあ、大損させられたら、誰でも激怒しますよ。しかし、やっぱり、そんなことがあったのか。それから、ドケチになったのかな。

玉江　そうね、まあ、大きなきっかけにはなるわね。

道子　そんなことあったら、私も、今よりはずっとケチになっていたかも。

夏夫　だけど、あんまりケチでも困るよね。

石雄　そうそう。山田さんちは、自治会費もなかなか払わないらしくて、役員の人が代々困るらしいわよ。

道子　一年間で、４千円なのに、ねぇ。

夏夫　ハハハ、えらいドケチですね。

玉江　でも、今は三人とも、お金持ちって話よ。学校の先生だったから、退職金は多いし、年金もいいでしょ。利夫さんも、大きい銀行だったから、退職金はウハウハでしょ。

夏夫　三人で、１億はあるでしょうね。それに、家の敷地が１００坪はあるし。

石雄　でも、あんな風に毎日ケチケチしているだけじゃ、人生、楽しくないだろうな。
玉江　あら、ケチな人って、貯金通帳の金額が、ちょっとずつ増えていくのが、このうえない喜びなんですってよ。雑誌の誰かのエッセイに、書いてあったわ。
道子　それにしても、冬になったら、どうするのかしら？往復、６キロよ。すくなくても、週に２、３度以上は行くでしょ？
玉江　私なんか、途中で倒れちゃうわ。
石雄　それほどの費用でも、ないと思うけどな。しかし、よその家の事に、意見を言うわけにもいかんしな。
夏夫　まあ、修理するもしないも、それぞれの家の自由だから、仕方ないですねぇ。
（４人のおしゃべりは、続いたまま、舞台、次第に暗くなって行く。）

第４幕
山田家の居間。正面のサイドボードの上に、里美の写真が飾ってあり、横の小振りの花瓶に、庭から切った紅い実のついた南天の枝が２、３本飾られている。

吉野　でも、里美姉さん、意外にお金残してなかったわね。私、ひょっとしたら１億くらいあるかも、なんて思っていたけど。
利夫　まあ、引退したのが２０年前だからね。物価が、ずいぶん違うしさ。俺は、５千万くらい、と思っていたけど。
吉野　それが、全部で約３千万円。ねえぇ、指輪とかアクセサリーは、私が全部貰っていいでしょ？あんた、男なんだから。
利夫　駄目駄目！！イミテーションは全部あげるけど、金とかプラチナのは、引き取り相場の半値は払ってよ。
吉野　まあ、どこまでケチなの。でも、素敵

なペンダントが多いから、それでもいいことにするわよ。
利夫　形見に、ひとつだけカマボコの指輪を貰っておくよ。よく喧嘩したけど、やっぱり、本当の姉さんだから。思い出に。
吉野　分かったわ、探しておく。あと、着物とか服は、姉さんのお友達にあげていいわね。形見分けとして。私も、似合うのは貰っておくけど。
利夫　ああ、まあいいよ。姉さんも、喜ぶと思うから。
吉野　じゃあ、来月辺り、銀行に行きましょうか。書類をそろえて。
利夫　ああ。面倒だけど、仕方ないね。
吉野　あなたも、書類集め、半分やってよね。大変な作業なんですからね。では、打合せはこれでおしまい。
（利夫は下手に、吉野は上手に、消えていく。）

第５幕
山田家の居間。テーブルを挟んで、吉野と利夫が、向かい合っている。吉野が、タルパという、高専賃の案内書を、利夫に渡す。利夫、は、ぱらぱらと眼を通す。

利夫　ここかい、この間、姉さんが見学に行ってきた所って。西洋風のテイストだね。
吉野　まぁ、そんな所。それでねえ、由美さん達とかが、どうしても一緒に暮らしたいというんでね。私も取り合えず２年間の契約をしてみたの。３階の、真ん中のひと部屋。再来月からね。
利夫　家賃は幾らなんだい？
吉野　８万５千円よ。台所と６畳の部屋だけだけど。１階に、共同で利用できるサロンやホール、レストランがあるの。入居時に、手数料５万円と敷金４ヶ月分がい

るけど。それに、管理共益費が月に３万円。食事は、下に食堂があるけど、頼めば部屋に運んでくれるし、飽きたら外で食べてもいいの。

利夫　病気のときは？

吉野　病院が、そのマンションの１階にあるのよ。外科と眼科と耳鼻科だけど。入居者には、受付に医療のコンサルタントがいて、専門の病院を手配してくれるの。

利夫　そうかい、そりゃあ良かった。所で、この家の権利は、どうするんだい。まさか、俺に買い取れってか？

吉野　あら、冗談は顔だけにして。しばらくは、このままにしておくわ。だって、入居してみないと、本当の居心地は、分からないでしょ。由美さんたちは、満足しているけど。４、５年は、別荘代わりの予定よ。

利夫　おいおい、あんたこそ顔だけにしてくれよな。まあ、そういう考えなら、それでもいいけどさ。

吉野　ときどきは、帰ってくるわよ。

利夫　来なくていいさ。これでゆっくりと、祐二たちと碁が出来るな。

吉野　あら、利夫さん。変な人を、家に入れないでよ。あんた、いつだったか、浮浪者みたいな人を連れて来たじゃないの。

利夫　ええっ、あの人は、年金暮らしの人だぜ。まあ、額は少ないらしいけどね。

吉野　いやねえ、そんな人。ともかく、親戚の人以外は、家に泊めないで頂戴。

利夫　それは、俺の自由だろ。あんたはさ、しばらく、というか永久でもいいんだけど、ここに居ないんだから。

吉野　あら、この家の半分は、私の権利ってこと、忘れないでよ。駅前の不動産屋で聞いてみたら、土地だけでも４千万円近

いってよ。まあ、家の取り壊し料が、かなりかかるらしいけど、ね。大きくて、すごく古いから。

利夫　高齢者専用入居賃貸住宅、っていうんだろ？姉さんの、入る所。

吉野　そうよ。高専賃。今、郊外でどんどん増えているのよ。

（二人の会話は続くが、舞台、次第に暗くなっていく。）

第６幕

浅草から、電車で３０分程度の、郊外の駅。そこから徒歩８分の、５階建ての中規模マンション。ここは、廃校になった小学校の約９００坪の敷地を利用して、三分の二を公園に、残りの敷地にこの高専賃の建物が建っている。その４階の南、野沢由美の部屋。そこのリビングルームに、ここに住む４人の女性が集まり、窓際のソファに座ってお茶を飲んでいる。

吉野　ここは本当に日当たりがよくて、気持ちがいいわね。ベランダからの、見晴らしもいいし。私の部屋は、日当たりがイマイチなのよねぇ。

由美　そりゃあまあ、お家賃がねぇ。ここは、１５万、だからねぇ。

佐川　胡桃　私は２階だから、同じ広さでも１２万よ。見晴らしを、犠牲にしたの。ほら、宿六は年中、釣りだゴルフだといないでしょう。私もキルトやったり、パソコンいじったりで、あんまり景色見ないから。

石巻　里子　お家賃が安い分、趣味にお金をかけられるわねぇ。

由美　あら、そういう手もあったわねぇ。でも、家は主人も、割と家にいるしねぇ。二人とも、景色が好きなのよ。

吉野　私も、隣の公園を見るのは好きよ。洒落たヨーロッパ風だし。でも、一階下にして、節約しても良かったのね。年に１０万円も違うわ。
胡桃　考えると、難しいわねえ。でも、他の高専賃にいる人達に聞くと、ここは、かなり良心的よ。食堂も、美味しいし。あっ、レストラン「ローズ」だったわね。
里子　ローズは、洒落ていて素敵だわ。味も、値段に較べてまあまあだし。
吉野　ローズは、素敵よ。ヨーロッパのレストランみたい。あと、この近所のファミレスも、みんな安くて便利だし。
胡桃　マックも吉野家もあるし。
由美　あはは、便利よね。３０分くらい休みたいときは、マックのコーヒーで十分よね。
吉野　３０分の休憩で、本当の喫茶店に入ったら、大損よねえ。
（４人のお喋りはつづく。舞台は、ゆっくりと暗転する。）

タルパ１階のレストラン「ローズ」の向かいのサロンで、通夜が行われている。奥の祭壇には、にっこりと微笑む野沢由美の遺影が置かれている。その近くに、吉野たちがパイプ椅子に並んで座っている。
胡桃　でも、急すぎるわ由美さん。教えて頂きたいこと、まだまだたくさんあったのに。
里子　吉野さん、お辛いでしょう。いちばん親しかったんだから。
吉野　もう、昨日から泣きっぱなし。辛い、切ない、しか言葉がないわ。
胡桃　一昨日の昼までは、元気だったのにねえ。ローズのランチも残さず食べて、コーヒーは３杯も飲んでいたのに。
里子　本当に、人間なんて判らないものね。
吉野　寂しくなるわね、これから。私、どう

したらいいのかしら。今まで、とても楽し
かったのに。
里子　私達がいるじゃない。和歌子さんや、
富子さんたちも。
胡桃　そうよ。皆で、頑張りましょう。
吉野　有難う。落ち着いたら、ゆっくり考
えてみるわ、これからのこと。
（三人の会話は続くが、舞台、次第に暗く
なっていく。）

第７幕
山田家。葬儀の準備が、進んでいる。近所の
主婦達が、手伝いに来ている。奥の部屋の襖
が開いて、野中玉江が小太りの喪服姿で出て
くる。

玉江　吉野さん、吉野さん。
吉野　はい、何か？
玉江　あちらで、葬儀社の方が呼んでいますよ。何か
相談が、あるんですって。
吉野　あっ、はい、分かりました。
吉野、奥の部屋に消えていく。
道子　玉江さん、このお家、どうなるのかし
ら。吉野さんは、千葉の高専賃、気にい
っているんでしょ。
玉江　ええ、戻ってくる気はないらしいわ。
多分、四十九日が終わったら、売りに出
すと思うわ。
そこへ、石川紅子と佐藤礼子が寄ってくる。
紅子　ねえぇ、このお家って、幾らくらいで
売れるのかしら。
玉江　３千５百万くらいでしょ。お家はもう古い
から、土地だけの値段よね。
礼子　意外と、安いのねえ。私、５千万はす
ると思っていたわ。
玉江　家が新しければ、それくらいするわね。
でも、よーく見ると、すごく老朽化して

いるわ。もう、築５０年以上でしょう。
道子　でも、ちょっと寂しくなりますね。山田さんのお家が、無くなってしまうなんて。
玉江　まあ、そうねえ。何といっても、昔から、この町の人達だったし、ねえ。
礼子　９年前の、あの銭湯騒ぎが、懐かしいわね。
道子　冬になるまで、続きましたね。
紅子　三人とも、あの歳でよく通ったわね。見ていて、私達も辛かったわ。里美さん、真冬にとうとう、力尽きたけど。
玉江　意地っ張りだからね、三人とも。７０歳を過ぎた人達に、若手から注意もできないしさ。
礼子　反面教師、っていうんでしょうか、ね。仲良くしたほうが、結局は得、ってことですものね。それを、身をもって教えてくれた、って言うのかしら？
玉江　そうよね。私達も、兄弟じゃないけど、仲良くやっていきましょう、ね。
（そこへ奥の部屋から、吉野が出てくる。）
吉野　まあ、皆さん、ちょうどよかった。お料理の数、どのくらいにしたらいいのか、ご相談しようと思っていて。
玉江　ご会葬の方は、何人くらいでしょう？ご近所の方を除いて、ですが。
吉野　弟の付き合いは、あまり知らないのよ。昨日、利夫さんの手帳なんか見て、ある程度は、掴めたんだけど。
紅子　それじゃあ、すこし多めに用意したほうが、いいかも知れませんね。足りないと来てくれた方に、悪いですしね。
里美　そうね、私も、弟の葬儀でケチケチした、なんていわれたくないし、ね。ここは、十分用意しましょう。そうねえ、親戚の分と合わせて、８０人分で十分足りる

と思うけど、あと２０人分追加して、百人分としましょうか。
玉江　ご近所の分は、７０人分くらいでいいと思いますわ。
里美　ええっ、そんなに来て下さるのかしら？
紅子　最近の、この近くのご葬儀を見ていると、それくらいが適当だと、思いますわ。個人のお付き合い、と言うより町内会のお付き合い、ですから。
里美　そうよねぇ、それならそうしましょう。私も、恥はかきたくないから。
礼子　もしも残ったら、あとでご近所の方に配ったら、よろしいですわ。この辺りの慣例ですわ。
里美　そうね、この辺りそういった感じよね。では、お世話をかけますが、注文とかもろもろ、お台所のほう、よろしくお願いいたします。
（里美、主婦達に深く頭をさげる。）
玉江　承知いたしました。里美さんも、大変ですけど、頑張って下さいね。
里美　ああ、有難うございます。何とか、気を張って、最後まで頑張りますわ。

主婦達は、下手に、里美は、奥の部屋に消えていく。

第８幕
山田利夫の葬儀から１年後の、野中家の居間。主婦達が集まっている。

礼子　でも、意外でしたね。里美さん、高専賃から、戻って来たなんて。
玉江　そうよねえ。私も、びっくりしたわ。でも、友人といってもいざ一緒に住んでみると、いいことばっかりじゃないわよねぇ。

紅子　そうですよね。たまに会うから楽しいんですよねえ。気が合う友達でも。でも、ここ最近、二人の男の子が、一緒に住みはじめたようですけど？

玉江　ああ、あれは親戚の子達よ。ひとりは山梨、背の低いほうは静岡から。二人とも、東京の大学に通うのに、都合がいいんですって。里美さんも、男手があるほうが安心だから、承知したそうよ。

道子　お家賃とか、貰うのかしら。

玉江　それがねえ、あのガメツイ人が、水道代と光熱費の分担だけで、ＯＫしたんですって。

紅子　どうして、なのかしら。

玉江　あのねえ、ここだけの、あくまでここだけの話しよ。

（主婦たち、うなずく）

玉江　ずっと先にいって、気にいったほうを、養子に貰う予定なんですってよ。二人とも、次男とか三男とか、らしいわよ。親たちも、ＯＫしているんですって。だって、どう考えてもかなりな財産でしょ。この不景気な時代に、名前を継ぐだけで、それが手にはいるんだから、親達もノリノリのはずよ。

礼子　お寺のことだけ、面倒をみればいいんですものね。管理費を払って、たまに、お墓参りにいったりすればいいんですもの。世間的な体面上ね。

紅子　あとは、里美さんの、お葬式。

（主婦達、顔を見合わせ、全員で忍び笑いをする。）

主婦達は、まだ喋り続けているが、舞台、次第に暗くなっていく。

（完）

あとがき

ご覧いただき、有難うございます。さて、上演・映像化等の、許可について。
＊第一期の受付は、２０１６年３月末までとします。
改悪・改竄等の意図がない限り、大学等のイベント、小さな劇場等での公演でも、無料で許可を検討します。ただ、ご希望に添えない場合もありますので、悪しからず。
＊受付場所
ヤフーブログ、ハーブの名歌、または華の昭和名歌のゲスト・内緒まで。具体的な内容を書いて、送って下さい。１５日以内に返事のない場合は、不許可ということです。